
平成 30 年度 交通に関する紫福地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 14 日（木） 14：00～15：30

場 所：福栄営農研修室

事務局：萩市、福栄総合事務所 日本工営(株)

ご参加：住民の皆様 10 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：朝の旧萩市内方面行き路線バスは畑バス停 9 時台発であり、萩市街地の病院着が 10 時半頃となってしまふ。以前と同じ 8 時台に畑を出るダイヤに戻ると嬉しい。

事務局：ご意見いただきありがたい。路線バスについて、現在は大半が大井経由だが、押原経由で、より早く旧萩市内へ行けるよう検討している。ダイヤも合わせて検討したい。

参加者：路線バスの運賃が高い。バス運賃の補助があると助かる。

事務局：ご負担になっているのは十分理解している。

参加者：最近旧萩市内の歯医者に通っているが、自動車で行っている。これがバスで行くとなると往復 2000 円となってしまふ。歯医者診察代自体は 100 円なので、それと比較すると、とてもバスでは通えないと感じる。

参加者：高校生は、朝は親と一緒に車で行き、帰りはバスだと聞く。しかし、部活をやると旧萩市内からの帰りが、今の運行時間より 15 分程度遅くないと乗れないと聞いたことがある。（紫福支所では 18:20 萩センター発 19:14 堀越着が最終便、福栄総合事務所や吉部方面は、18:40 萩センター発 19:18 吉部着が最終便）

事務局：学校に部活の帰宅時間を確認して、可能な限りバス会社と調整してみたい。

参加者：自家用有償旅客運送の話はどこまで進んでいるのか。萩市の議会便りで読み、気になった。

事務局：自家用有償旅客運送制度は、本来交通事業者が担うべき地域の足が、過疎地域であるということで提供されない場合に、代替手段として自治会や NPO が担い手として運送ができるという制度である。一番重要なのは担い手である。市としては様々な手法を組み合わせたい。例えば今はお金を受け取らずにボランティアでやっている方などもいらっしゃるが、そういう方々もお金を受け取ることができる。ただ、まだ具体的な話は進んでおらず、今後様々な議論を重ねて、例えば担い手がいる場所では実証運行なども考えられる。運転する方も無償ボランティアでは持続性が無い。

参加者：運賃が高いということであるが、山口市では高齢者は路線バスの運賃が一乗車 100 円である。同じようなことが萩でもできないか。

事務局：山口市は福祉政策としてやっている。萩市でも福祉施策と連携して検討していく。

参加者：100 円でなくてもいいので、負担感が無いようにお願いしたい。

参加者：交通事業者に補助するくらいなら、利用者に補助する方がいいのではないか。

事務局：まずは交通事業者が路線を持続できるように、事業者に補助金を出している状況。利用者の負担に関しては、萩市全体で利用者負担のあり方を検討して、利用者向けの補助を考えたい。ただ、明日から直ぐということにはならないのでご理解をお願いしたい。

参加者：タクシーの利用補助はあるのか。

事務局：高齢者向けではなく障がい者向けではある。

参加者：運転免許証を返納したら何か恩恵は無いのか。

事務局：他の自治体ではあるが、萩市ではそのような制度は無い。

参加者：防長交通の運転手に聞くと、とにかく利用者がいないとバスが維持できないと言われたが、運賃の負担感があると感じる。

参加者：ぐるっとバスの件について、月曜日の運行（堀越・中山方面）だと、祝日が多いので運行日が少ない。月曜日自体は用事が多い曜日なので利用したい。月曜に運休する場合は火曜に振り替えなどできないのか。

参加者：サロンは月 2 回やっている。ただ、サロンに高齢者を送迎する運転手の確保が課題。ボランティアでもいいが、続かない。運転する人も 65 歳を超えている。何年続くかわからない。全てがボランティアではできないと感じる。

参加者：利用者もある程度お金を出す制度というのもあっていいと思う。

参加者：運営側にとっては、担い手が大きな課題と感じる。今回の資料にあるアンケート結果で、将来の運転に対し不安が無いと感じている方の割合が大半だが、危機感が無いと思う。車を運転できるうちから公共交通についても考えていくべき。車が運転できなくなってから考えるのは遅いと思う。交通の問題だけではない。福祉の方と連携を取って、様々な面から考えてほしい。

事務局：福祉施策の総合事業で住民主体の支えあいを進めているが、福祉では有償化の発想はない。ただ、地域の足の確保の場合、住民主体でやる際も無償では長続きしない。持続可能な体系を作っていくために、住民や自治体を含めた自家用有償旅客運送を考えていかねばならないと考えている。

参加者：高齢者はごまかしごまかし運転している。

事務局：どこの地区社協でも話題になるのが移動手段についてである。先日、田万川地域で移動手段をテーマとした住民講座に 120 名もの参加があった。危機感、不安感がある中でやっている地域もある。危機感の度合いは違うが、将来、公共交通の利用意思があると答えた方はどの地域もアンケートでは 8 割を超えている。

参加者：ぐるっとバスの利用にあたり、歩行自体が難しくなっている方は、どの程度の

方まで乗車可能なのか。同じ地域内で、病院を退院したばかりで、スーパーに行きたいが歩行が非常に危うい方が、ぐるっとバスの利用を断られていた。その際は、スーパーなどの買い物に行く足が無い状態であった。

事務局：ぐるっとバスは、どなたでも使える。ただ、介助しないと乗車できない場合は難しいところがあるかもしれない。運転手によっては融通がきく場合とそうでない場合もある。介助が必要な場合、運転手は停車時に車道側から出入りしなければならぬため、頻繁にあると危険だと感じる。

参加者：ぐるっとバスの一部車両に4WDでない車両があると聞いた。

事務局：計画的に車両は更新している。

参加者：以前、ぐるっとバスの周知のために、時刻表を拡大してコピーしたものを地区に配ったことがある。利用が少ないのは何か問題点があると思う。

事務局：地域の実情で異なるが、紫福地区は定時定路線が定着している。民生委員が寸劇をして、デマンドの使い方を教えている地域もある。

参加者：無料の場合、高齢者にとって電話して迎えに来てほしいと言いつらい部分があるのかもしれない。自分のためにわざわざ来てくださいというのは非常に気兼ねする。無料だとなおさらである。

参加者：せっかくぐるっとバスがあるのであれば、利用しやすいように運行方法を変えるなど、一回大きく見直すことも考えられないか。

参加者：ぐるっとバスは少しお金を取ってもらった方が良い。

事務局：交通事業者と協議は必要であるが、有料化は可能である。

参加者：地域内の診療所では診てもらうことができない場合もある。旧萩市内までぐるっとバスがあればいいが、交通空白地でなければ難しいというのを知っている。ちなみに萩のまあるバスはどういう制度なのか。

事務局：市街地の循環線として、交通事業者と協議をした上で運行している。

参加者：山口市方式が良いと感じる。(高齢者は路線バス100円/1乗車)昨夏のアンケート結果は早期に反映されるのか。

事務局：料金に関しては事業者との協議や予算が必要なため、すぐには対応できないのはご理解頂きたい。ぐるっとバスの見直しは、可能な部分ではできるところから見直していきたい。

参加者：防長交通は、大きな車両でまるで空気を運んでいるように感じる。小型のバスを走らす事はできないのか。

事務局：交通事業者に何うと、車両更新が難しいとのこと。また、運行経費の大半は人件費であるため、一概に小型化が大幅な経費の削減にはつながらないこともある。

参加者：今回の網計画策定後、実施はいつからか。

事務局：H32年度当初予算から計画に基づき、順次事業を実施していきたい。ぐるっとバスの見直しなど、できるところから直ぐにやっていきたい。

参加者：ぐるっとバスと路線バスが結節すれば利用しやすくなる。便利なら利用すると思う。

事務局：承知した。

参加者：バス停は屋根付きの箇所があるが、雨漏りしないように改装できないのか。また、時刻表しかないところがある。

事務局：拠点となるバス停は、待合ができる環境を整えなければならないと考える。既存の公共施設に乗り入れるなど、工夫次第で待合環境は改善できると思う。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上